

広軌と狭軌

～鉄道院総裁 『後藤』と『原』の選択～

交互に鉄道院総裁を務めた後藤新平と原敬。片や3度もの鉄道院総裁に就任し、強力に広軌化を推進。片や狭軌維持で全国隅々に線路敷設、と方針が全く異なりました。この綱引きは、原敬の首相就任で、最終決着がつかず。

I 広軌（標準軌）改築（後藤新平と鉄道関係施策）

【満鉄株券】



- 1 台湾民政長官：1898（明治31）年～
【台湾縦貫鉄道の建設】【阿里山鉄道】
- 2 南満州鉄道初代総裁：1906（明治39）年～
【南満州鉄道の広軌改築】
- 3 逓信大臣兼初代鉄道院総裁時代：1908（明治41）年～
【鉄道院総裁の実績】鉄道院創設・鉄道会計独立化・鉄



令和五年度第三回企画展

広軌と狭軌
～鉄道院総裁
『後藤』と『原』の選択～

「併置」シリーズ後藤新平人脈考④ 十河 信二



【開期】令和5年12月15日（土）～令和6年3月17日（日）

奥州市立後藤新平記念館

- 道職員人員整理と物件費及び消費節約・制服、徽章制定・職員地方教習所設置・保健体制拡大、常盤病院創設、消費組合設立・東亜英文案内編纂・東京市内電車市営化・信愛主義と家族主義の鼓吹【国有鉄道の広軌改築問題推進】
- 4 内務大臣兼第7代鉄道院総裁時代：1916（大正5）年～
【鉄道院総裁の実績】綱紀振肅訓示・人事異動・運輸激増・従業員優遇・鉄道予算根本策



【島 安次郎】

II 狭軌を全国隅々へ（原敬と鉄道関係施策）



- 1 逓信大臣（鉄道所管）：1900（明治33）年～
内務大臣（兼逓信大臣）：1906（明治39）年～

【それまでの広軌化を巡る議論】1888（明治21）年、鉄道局長官は「莫大な費用がかかる、余裕はない。」と回答。1892（明治25）年、「鉄道会議」が、改築維持費用は膨大である等の理由で「広軌化反対」。1896（明治29）年、逓信大臣が「広軌が優れているとは思わない」と答弁。【広軌改築予算削除】

- 2 内務大臣兼第2代鉄道院総裁：1911（明治44）年～【広軌改築案を葬る】
- 3 内務大臣：1913（大正2）年～【広軌鉄道改築計画を実施する余地なし】
- 4 原内閣成立：1918（大正7）年～【議論に決着】広軌鉄道計画廃案



【床次竹次郎】

III 後藤と原の鉄道関連施策の綱引き（そして・・・広軌鉄道計画廃案）

年	後藤新平と原敬の鉄道院関連施策等	広軌	狭軌
1900（明治33）年	第4次伊藤内閣（原敬逓信大臣：鉄道所管）		○
1908（明治41）年	第2次桂内閣：（後藤新平逓信大臣兼初代鉄道院総裁）東京下関間調査指示	○	
1911（明治44）年	第2次西園寺内閣（原敬内務大臣兼第2代鉄道院総裁）		○
1912（大正元年）年	第3次桂内閣（後藤新平逓信大臣兼第3代鉄道院総裁）3カ月の短命内閣	○	
1913（大正2）年	第1次山本内閣成立（第4代鉄道院総裁床次竹次郎）（原敬内務大臣）		○
1914（大正3）年	第2次大隈内閣（第5代鉄道院総裁仙石貢→第6代添田寿一）原敬政友会総裁就任		
1916（大正5）年	寺内内閣（後藤新平内務大臣兼第7代鉄道院総裁後藤新平）広軌化推進	○	
1918（大正7）年	後藤内務大臣は外務大臣に転出（第8代鉄道院総裁中村是公）		
	原内閣成立（第9代鉄道院総裁床次竹次郎）広軌鉄道計画廃案		◎

IV しかし・・・十河と島が新幹線を走らせた

1955（昭和30）年、後藤の部下だった十河信二が国鉄総裁に就任。島安次郎の息子秀雄を副総裁格の技師長として復帰させ、新幹線に向けて舵を切った。1964（昭和39）年10月1日、東海道新幹線が開通した。

